

唐丹の民話・12話「片川地区」

# 片岸川の

## 河童・かっぱ・カッパ



平成18年10月

唐丹・愛ちゃんネットパソコンクラブ

## 目 次

### 一片岸川のクッパー

唐丹民話の再話著作にあたって	2
1. 人喰いクッパー	3
2. クッパーの失敗	3
3. 約束守ったクッパー	4
4. 伝五郎さんの河童ばなし (参考)	5
5. 最近の川目の人たちの話 (1) 鈴木哲郎さん (屋号・下) の話	7
(2) 鈴木修一さんの話	7
6. おわりに	8

## 唐丹民話の再話著作にあたって

唐丹公民館の自主パソコンクラブ（設立：平成17年6月／名所：唐丹・愛ちゃんネットクラブ）では、パソコンによる文章作成を習得した証と民話を伝承する狙いを含めて民話の再話著作活動を実施しました。

文章作成の教材は、釜石民話会（平成2年発足）の機関紙「釜石民話」を活用させていただきました。

この釜石民話の中から、唐丹に関り、かつ再話できるものを選び。その根底にあるものを変えないことを基本に「見やすく」、「読みやすく」、「分かりやすく」するために小見出しを付け、写真や絵図などを挿入。できるだけ、関連する歴史や実話を織り込みながら作成しました。

いつの日か、この冊子が誰かの目に留まり、唐丹にもこんな話があったのかと唐丹の「いにしえ」に想いをはせる一助になれば幸いとおもいます。

おわりに、この活用させていただいている民話は、釜石民話の会会員でありました唐丹町片岸の加藤ムツさんが採録（聞き取り）したものであり、第1集から第6集に掲載の民話の数は92編を数えます。

加藤ムツさんの民話を伝承したいという、この熱意と努力に敬意を表するとともに、故人となられました加藤ムツさんのご冥福をお祈り申し上げます。

なお、この物語の「片岸川のカップ」は、釜石民話第4集「カップの話」を再話著作したもので、その原文は次のとおりであります。

昔な一、おらの小せい時おっかさんにきかせられたもんだ。  
山谷の片岸川の上流にしめきりと言って水をせきとめる所があり、少し深みになっていてその岩にカップがチョコンと腰掛けていて頭の毛をけずっていたもんだよ。

そのころ、川で遊んでいた女ごわらすが腹わたをとられて死んだことがあつてな一！そこでどんなに暑くても水泳ぎするなど、きつく言われたものだが、ある時農家の人馬を連れ行きからだを洗って帰って来れば馬の尻尾にカップがぶら下がっていたど。

ところが水のない山畑に来たのでカップの頭の皿は乾いてカサカサになりカップは馬主に「どうぞ助けてください川に返してください」と拝むようにしたので馬主は「悪いことはすんなよ、しなければ返す」と云うとカップは「約束します」と言うので川に返したと。

それからは、カップにひっぱられる事もなくなり、その「しめきり」というところで水泳ぎができるようになったんだと。 どんとはれ

大木戸サキ様の語り78才

# 片岸川のカッパ

## 1. 人喰いカッパ



(カッパ)

昔なあー、おらの小せい頃。おっかさんに聞かせられだもんだ……。

片岸川の上みの川目に「しめきり」と言って、田んぼに水を引ぐため、大きな岩や小せい岩で水を堰き止め、少し深みになったとごがあったんだ……ど。

そこの岩にカッパがチョコンと腰かけて、なにげなく頭の毛をけずっていたんだど。獲物をねらっていたんべがねえー……。

その頃、川で遊んでいた女子わらしが、腹わだとられで死んだことあつてな……と。

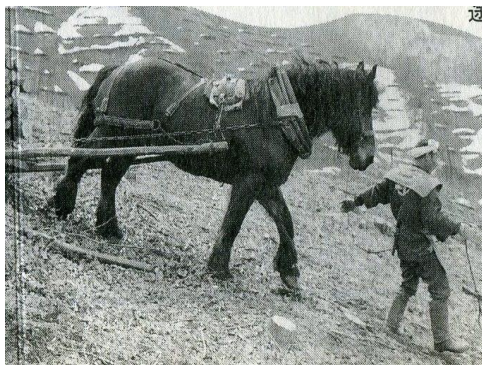
だから、どんなにあつくても、あそこでは、水泳ぎすんなど、きづく言われたもんだ。



(片岸川のカッパ淵周辺とカッパ)

## 2. カッパの失敗

あるどぎ(時)、お百姓さんが、その川に馬つれでいって、体洗って帰って来たれば、馬の尻尾にカッパがぶら下がっていたんだど。



(カッパがぶら下がった馬の想像図)

カッパは、川に馬を引きずりこもうどしたが、力およばず尻尾にしがみついたまま、水の無い山の畑まで来てしまったど……。それで、カッパの頭の皿乾いで、カサカサになってしまったど。

カッパは、さあー大変だ！と。このままでは死んで終しまうと思ひ。お百姓さんに「どうが助けてください。川に帰してください」と拜たまむように何度も、なんと頼んだど。



### 3. 約束守ったカッパ

そこで、お百姓さんが、「悪いごどすんなよ、しなければ帰す」と言ったら、カッパは、泣きながら何回も「約束します」「約束します」と言ったので、信用して、カッパを川につれて行って帰したど。

それからは、カッパに引っ張られるごどもなくなつて、「しめきり」で、水泳ぎができるようになったんだとさ。

どんとはれ



(片岸川のカッパ淵周辺)

(物語の項) おわり

#### 4. 伝五郎さんの河童ばなし（参考）

川目の尾形伝五郎さんが、表題の「片岸川のカップ」の民話を裏づけるような話を、「反骨・鈴木東民の生涯」著者鎌田慧さんの取材中の雑談で、片岸川の河童の話を次のように語っています。

##### 第1章 岩手県唐丹村 唐丹村と鈴木家

（前文略）

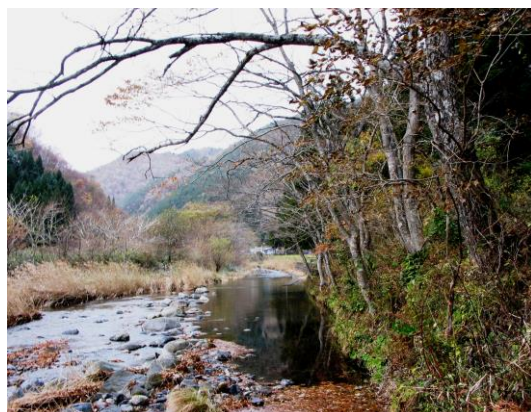


指がちぎれるほど風が冷たかった。赤い柿の実が三つ四つ、風に吹きとばされまいとして梢にかじりついていた。

（←平成19年11月22日雪の日・大家の屋敷跡上方周辺）

その一画はいまだ鈴木家（大屋）のものである。一時、人手にわたっていたのをかいもどしたとか。

（大家の屋敷跡遠景→）



墓のある高台の下を小川が流れている。片岸川である。

その川に沿って長く伸びている道を、両手をうしろに組んで、先にたって歩いていた尾形伝五郎さん（82歳）がたちどまった。

（←墓下の片岸川の清流）

「あそこに家があったんですよ、竹の下っていう屋号の。この川原で草を喰わすんで馬を繋いでいた。したどころが、ここに河童いたんですよ。



(竹の下の屋敷跡周辺・平成19年11月22日小雪降る昼下がり)

馬の綱をね、解いで川さひっぱりこむ気になって、ひっぱったんですがすぺ。手さ巻いて綱ひっぱったんですがすぺ。したどころが、人でもねえもん<sup>たまげ</sup>にひっぱられだから、馬は魂消<sup>まや</sup>て馬舎さ跳ねごんだど。

そうしたれば、跳ねごんだのは、『なんだ』とこの家の爺さま<sup>まおけ</sup>がいつてみだどころが、河童、頭がら馬桶かぶって隠れでいだんだど。

お爺さんが、『おめえは、河童だべ』といたら、首を横さ振ったんだど。『ここで悪戯<sup>いたずら</sup>すんだらば殺す、悪戯すねんだば助けっから』といたんだど。

したら河童、手を合わせだんだど、もう悪戯しねって。そんで、見逃してやったんだそうですね。それっきり河童はいなくなってしまった、そういう話あるんですよ」

伝五郎さんは、ごくふつうの雑談のように話した。

(後文略)

(1989 《H1》年3月25日・反骨・鈴木東民の生涯

・唐丹村と鈴木家の項より引用)



## 5. 最近の川目の人たちの話（参考）／校正指導者：新沼が聴取

以下の参考編の記述は、前述の4.「伝五郎さん河童ばなし」出てくる河童話や屋号の「大家」や「竹の下」について、聞き歩いた時の話です。

### (1) 鈴木哲郎さん（屋号・<sup>しも</sup>下）の話



(河童ぐち周辺)

東民さんのお墓の近くを流れる片岸川の下の方に、「河童ぐち」という場所があるんです……。蛇籠<sup>じゃかご</sup>の仕切りがあるところですよ。

ここでは、子供の頃魚がよく釣れたんですよ。深さもあったし。釣れない時は、「河童ぐち」でも、今日は駄目だったとかいったもんです。

それ位釣れたんですがね……。その「河童ぐち」といわれる謂れはわかりませんが……と。

ちなみに、鈴木さんは、鈴木家＝屋号・大家（東民さん等の先祖）の墓守りをしているとのこと。

平成19年10月2日（唐丹中学校にて） 川目／鈴木哲郎さんより

### (2) 鈴木修一さんの話

河童の話は、子供の頃親から聞いたことがある。

「河童ぐち」は、あそこだと指をさし。この橋の上の方の葦が生えているとこだという。

子供の頃、キュウリの節になると、そのキュウリに味噌をつけて食べたくて、弟とよく「河童ぐち」を泳いでわたり「竹の下」の畑にいったもんだよ……。

向う岸に渡るときは、真直ぐに泳がないで、上の方に向かって泳ぎ流されながら、丁度に泳ぎ着くようにしたが、「親に危ないから止める」と言われたことはなかったな……と。

昔に想いをはせるような眼差しで語った。



(川目橋)



そして、「竹の下」は、水上克代さんとこの裏の方で、今は俺の田んぼになっている。と話してくれた。



(晩夏の竹の下屋敷跡周辺)

小一時間、明治29年や昭和8年の津波について、親たちから聞いたことを話してくれた。そして、同級会の話に花を咲かせたことは言うまでもない……。

平成19年10月4日 川目／鈴木修一さんより  
参考の項、おわり

## 6. おわりに

最後に、いろいろな事を見聞きしてみると、この「片岸川のカップ」の話は、落合橋の下流周辺の「カップ淵」を想定していましたが、話の内容から、「河童ぐち」での話ではと思う次第ですが、特定できませんので、読む人の想像にお任せしたいと想います。

校正指導者より

◎「釜石民話」・第4号・「カップの話」

○話 し 手：大木戸サキさん／荒川

○聴 き 手：加藤ムツさん

●再話著者：山中志恵／小白浜地区

(唐丹・愛ちゃんネットパソコンクラブ)

●写真撮者：山中志恵／(同上)・新沼 裕／(同下)

●校正指導者：新沼 裕／本郷地区

(唐丹・愛ちゃんネットパソコンクラブ)

●再話完成：平成18年10月

\* (参考)：平成19年11月／新沼 裕・追記